

を深めるメディアとしての役割を、より重視してゆきたいと考えています。そのためには、一般的な解説記事やエッセイ、紀行文などを多く載せ、広く読者が興味をもてる紙面を充実させる必要があります。この点は、投稿規定には盛り込めませんでした。会報の基本的な編集方針であることを確認しておきたいと思います。

なお、会報の体裁等につきましても、来年度より変更する考えであります。その意味で、今年1年間はいろいろな可能性をさぐる模索期間と位置づけています。今まで以上の積極的な御寄稿をお願いするとともに、御批判や御意見をお待ちしています。

(角野康郎)

【付記】投稿規定3. Dの引用文献は、次の体裁にしたがってまとめて下さい。

- a. 雑誌論文 著者名、年号、論文表題、雑誌名 巻：ページ。(例) 牧野富太郎、1987. 日本産ひるむしろ属。植雑 1:2-7.
- b. 単行本 著者名、年号、表題、発行所。
(例) Sculthorpe, C.D., 1967. The Biology of Aquatic Vascular Plants. E. Arnold.
- c. 編集著作物 著者名、年号、論文等の表題。「著作物の表題」(編著者名)、ページ数、発行所。
(例) 生嶋功、1984. 水草の生活環境と物質生産。「水草の科学」(植木邦和編)、pp.59-89, 研成社。

○アンケートに御協力ありがとうございました。

前回の会報に同封しましたアンケートに、多数の会員の方から御回答をいただきました。貴重な御意見、御提言をありがとうございます。内容につきましては、次号で報告致します。

水草研究会会報投稿規定

1. 投稿は本会会員に限る。但し、本会が依頼した場合はこの限りではない。
2. 原稿内容は、水草に関する調査、研究報告、解説(総説)、短報、諸資料、諸情報、エッセイ、他とする。
なお原稿の内容に疑義のある場合は、書き直しを求め

ることがある。

3. 原稿作成にあたっては、以下の諸点に留意する。
 - A. 原稿は横書き原稿用紙に楷書するか、ワープロ(和文タイプ)を用いる。
 - B. 原著に相当する報文には著者名及びタイトルの英語を併記すること。また、著者が必要と認めた場合は、英文摘要(Abstract)をつけることができる。
 - C. 図は活字の貼り込みをのぞき、そのまま製版できるように仕上げる。図(写真含む)の右上または裏面に、図の番号と著者名を書き、説明は別紙に一括する。表は別紙に書く。表の説明は各表の上側につけ、必要に応じ、下に注をつける。
 - D. 文献の引用は、文献番号ではなく、著者名と年号を明記する。
(例)『三木(1937)は、…』『…である(三木、1937)』。また、文末の引用文献は、最近号の例にならって、著者の姓名のアルファベット順に配列する。(本頁左列【付記】参照)
4. 掲載の順序と体裁、並びに校正は編集担当者に一任のこと。なお、特に希望する点があれば申し出る。
5. 別刷を必要とする場合は、投稿時に必要部数を申し込むこと(50部以上、50部単位)。実費は著者負担とする。
6. 送稿や編集に関する通信は、〒657神戸市灘区鶴甲1-2-1 神戸大学教養部生物学教室 角野康郎宛とする。

※ここで言う水草は狭義の水草に限定せず、広く湿生植物なども含むものとする。

水草研究会会報 No. 39 (1990年3月)
[Bulletin of Water Plant Society, Japan]

発行 水草研究会(神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学教養部生物学教室内)
編集 角野康郎
印刷 中村印刷株式会社
(神戸市灘区友田町3-2-3)